2月号 第88号

発行日　：2024年1月22日
発　行　：　**虹技株式会社**
安全環境管理部 環境管理G
姫路市大津区勘兵衛町4丁目1
☎ 079−236−3257

正月早々 大変な出来事が立て続けに起こり、関係各位には大変なご苦労をされていると思います。　海外の紛争も収まる気配は見えず、なにか波乱含みの年明けに不吉な予感も。

　さて、タイトルバックは幸せの青い鳥の代表、ルリビタキの♂です。　夏の間は高い山の涼しいところにいるので、下界では見ることはできません。　冬になると低地に降りてきて越冬するので、今が絶好の観察シーズンでしょう。　ユーラシア大陸全域に生息しているので、この紛争を鎮める幸せの鳥になってくれたらいいのになぁ。

　これは昨年末、キューっと冷え切った朝のゆめさきの森公園で観察されたツララです。　その日はそこいらじゅうがツララだらけだったとか。　ところで「つらら（氷柱）」って変わった言葉ですよね。　平安時代までは「たるひ」と呼ばれ、つららと呼ぶようになったのは鎌倉～室町時代だそうです。　つらつら（連連）と氷が途切れず連なっている様子から来ているそうです。

　左下はモズの♀です。　オスは両目にくっきりと黒いラインが入っていますが、メスはこのように優しい目元です。　さっきのルリビタキと同じく、温かい季節は高くて涼しい場所で過ごし、冬になると平地で越冬します。　平地でもまだ寒いんでしょうかね、こんなに丸まっちゃって、これじゃちっとモズっぽくありませんね。

　こちらは、キイチゴの仲間のフユイチゴです。　キイチゴは通常、春に花が咲き、実が夏に熟すのですが、このフユイチゴは秋に花が咲いて真冬に実がなるという変わった種です。　越冬する鳥たちにとっては貴重な食糧になります。　自然ってのは、ちゃーんと助け合ってるんですね。

　これはチャノキの花です。　いわゆるお茶ですね。ツバキの仲間で冬に花を咲かせます。　野生では１０ｍにもなる高木の常緑樹ですが、茶畑では低く低く刈り込まれてるので本来のそのイメージはないです。

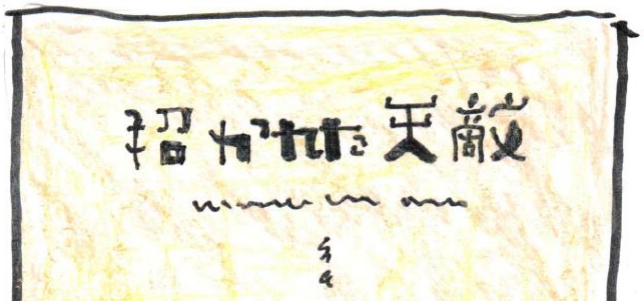
環境爺（じじい）のつぶやきコラム

毎年の事ながら、年末年始は疲れるのう。この３年ほどは特に、人の往来・帰省など出来なんだからその分、盛り上がるんじゃろう。　わし等世代は特に、三が日の親戚周りも恒例で「喰え喰え！」「飲め飲め！」の大攻防。　散々飲み散らかした後は、言うまでもない、グロッキーじゃ。　そりゃ胃も腸もビックリしてぶっ壊れるわな。お陰で、今年は人生初の便秘に。

下痢はいつものことじゃが、便秘は人生初でどうすりゃよいか四苦八苦もんじゃ。　品の良くない話になるが、もうちょっとで出そうで出ないという感覚が、あんなにも苦しいものとは知らなんだ。　ガニ股で薬局へ行き、かの有名な「〇〇〇〇浣腸」を購入。　何とか事なきを得たが、それはもう、この世の終わりかと思うたほどじゃった。

なんだな、この歳になると大腸も膀胱も硬くなり柔軟性がなくなるそうな。　そうなると力が出ない。つまり排泄力が弱くなっているのじゃ。　若い頃の小便の勢いも今はなく、ウ〇チもこれまた、今はみるも無惨に細くて誠に迫力がない。　おまけに出口の栓の開閉能力は著しく弱くて漏れやすいと来た。　いわゆるだだ洩れ状態じゃ。　わしが便秘になるなんぞ思いもよらんかった。　誠にひどい話じゃ。　この身体変化にうまく付き合うには知恵と勇気が必要じゃなぁ。

さて今回は、最近衝撃を受けた「招かれた天敵」という本を紹介しよう。　これを書いた千葉聡氏は東大大学院卒の生物学者で、現在は東北大学の教授じゃ。

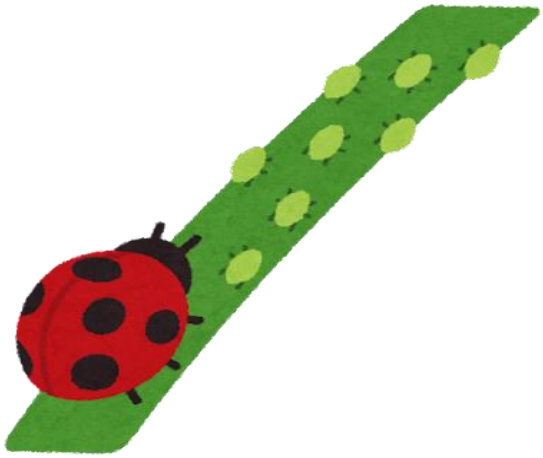


いかにも学者さんという、非常に理論立った話の展開に少々取っつきにくさはあるものの、外来種の暴走による農作物被害や生態系の破壊をいかにして防衛するかという人々の悪戦苦闘の歴史を１１の物語にまとめられておる。　これらの物語のどれをとっても、科学者の単純な外来種退治というハナシではなく、政治の駆け引きや、渦巻く利権の奪い合いなどに戦争や経済混乱が加わり、手に汗握る展開が非常に興味深くまるで大河ドラマを見ているかのようで、グイグイと物語に引き込まれていく。

しかも。その中にちりばめられた生物学的な知見や、生態学への深い洞察、それらの辿った歴史にいたく感動させられるのじゃ。　これら全てがわしの知らんことばかりで、こんなにも知らない世界があったとは、自分のことを環境爺（じじい）などと豪語しておったことを深く反省した次第じゃ。　先人たちは自然に対してこんなにも様々な闘いを挑み勝利に歓喜し、あるいは敗北に打ちひしがれて来たのじゃなぁ。

そこで、断片的に驚かされたその内容を紹介しよう。

●レイチェル・カーソンの「沈黙の春」を契機に DDT に代表される化学的防除への批判が強まり、生物的防除が良いものとする流れが作られたが、カーソンの主張は、「化学＝悪　生物＝善」という単純な２項対立ではなく、うまく使い分けて自然界にインパクトを与えないようにすることであった。
●テントウ虫は害虫駆除のために、世界中で流通された生物的防除のヒーローだった。
●19 世紀の欧米では、なんと外来生物をどんどん導入して世界中を均一の生物相にしようという動きがあり、世界中の植民地で実践され、世界を外来生物の被害に陥れた。
●日本でどこにでもある草、イタドリはイギリスでは凶悪な外来種として、厳しく規制され、違反すると刑法で裁かれるほどの極悪外来植物である。
●ユーモラスな形のウチワサボテンが世界各地で大繁殖して農作被害を拡大させ、それを駆除するために人々が並大抵ではない努力を続けているという事実。
●自然界にバランスなんて存在せず、常に変化しており、その変化は予測できないという考え方。



思いつくまま列挙してみたが、この本の醍醐味は、こういった知られていない事実だけではなく、物語そのものにある。　農作物に被害をもたらす害虫駆除に「招かれた天敵」を探して放つというキーワードで展開する 11 の話は、あたかも手塚治虫の「火の鳥」シリーズのようじゃ。　そして、最後の２話は太平洋の島々で繰り返される愚かな人災で、「招かれた天敵」によって固有種が絶滅していくさまをドキュメンタリータッチで描き、最終話では、著者本人が小笠原で「招かれた天敵」から固有種を守るために奮闘するも、むなしく敗北し、固有種は絶滅してしまうという結末じゃ。

この本の副題にある「生物多様性が生んだ夢と罠」というテーマについても深く考えさせられたわい。生物多様性は絶対善とされることが多いが、そんな簡単なものではないと再認識させられた。　人間はどこまで自然に介入することが出来るのか。　安易に介入しては自然に返り討ちにされるこの物語を読むと、自然というのは人間の浅はかな考えの及ぶものでは決してないと痛感するじゃろう。　４６４ページと大作じゃが、読むべき名著じゃ。　買わずとも図書館を利用するなど、ぜひ読むことを勧めたい。

さて、年始には冒頭のとおりひどい目にあったが、実は年末にはものすごく嬉しいことがあったのじゃ。わしの幼稚園児の時の初恋の女の子、ちよちゃん（仮名）とひょんなことから連絡がとれ、なんと 55 年ぶりに再会する運びとなったのじゃ。　色白でとても明るくて活発な女の子でな、なにしろ可愛かったあのちよちゃんに会えると思うとワクワクが止まらなんだ。

だが待てよ、さすがに 55 年も経過すると、どんなふうに変化しているか分からんじゃないか。　わが身の変貌を見ればその想像は容易じゃ。　なので、わしは心に固く決めたのじゃ。　どんなに変貌をとげていようが驚くまいと。

ところがじゃ、意に反し、会ってみると何と当時の面影そのままの素敵な女性が目の前に現れたのじゃ。学校を卒業してからは外資系企業で務め、そのあと英国に留学。　帰国後は外国公館で 26 年も務め、今は米国の某州政府の職員じゃ。　すごい才女、ちよちゃん。　さすがわしの初恋の娘じゃ。　若い頃にもっとお付き合いしたかったのぅ。　いや、いまからでも遅くはないか。

ぶつぶつ

虹の森なう

今回、ウッドデッキの作業は後回しに、尾根に作った遊歩道周辺の整備を行いました。　尾根筋の東側斜面にはまだまだ雑木があり、それらの伐採作業に手を焼きました。　何しろ斜面が急で、足場が安定しない。　一本伐っては、ズルズルと滑り落ち、また伐っては滑り落ちの繰り返しでなかなか進まない。

西側斜面は緩やかですが、以前に伐ったツバキやヒサカキの切り株から、ニョキニョキと新芽をつけて茂り始めたので、これらを刈払い機でやっつけます。
そして、枯れた木はチェーンソーで伐り倒して玉切りで細かくしました。

そして、尾根筋遊歩道の落ち葉はエンジンブロワで吹き飛ばし、スッキリさせました。

どうです、作業後に下から見た尾根筋のこのさわやかな光景は。　とても見通しの良い遊歩道になりました。　すべての落葉樹が葉っぱを落としているのもあり、虹の森は今回の作業でずいぶんと気持ちのいい森となっています。

別の日には、鳥の巣箱の掃除も行いました。　例年通り、営巣跡はいくつも見つけましたが、巣箱の傷みが激しくなってきているので、そろそろ、新しいお家を新調したいところです。　次はフクロウの巣箱なんかも設置してはどうかなぁ。　楽しみです。

第94回　森林整備の案内と参加者募集

次回も、少々寒い中での活動となる予定です。　集まったメンバー次第でデッキ製作にかかるか、雑木伐採にかかるかは分かりません。　例年の流れでは、シイタケ菌をホダ木に打ち込む作業の準備もするタイミングです。　いずれにしても、いい汗かいた後、温泉でほっこりしませんか。　初めての方大歓迎、気軽にお声がけくださいね。

日　時　：　２月１０日（土）　１０：００～１５：００（９：３０公園駐車場集合）

場　所　：　県立ゆめさきの森公園（虹の森）

申し込み：　参加希望者は、環境管理Ｇ　的場まで、またはお近くにいるメンバーまで連絡ください。
的場ケータイ：090-5979-8385

メンバーの方はショートメール等で参加の可否を連絡いただければありがたいです。

初めて参加される方は、保険に加入しますのでお名前、住所、ケータイ番号を連絡ください。